

【高碓達之助第五回講演】の概要(9/14の講演から)

1. 非母親音像：昭和29年(1954年)に四条畷野崎の「観音さん」で有名な慈眼寺に悲母観音を寄進した。また地元柱本の興楽寺にも同じものを建てた。それは野口英世の母親の、息子に対する母の愛に深く感動したからである。



柱本興楽寺



野崎の慈眼寺

この年(昭和29年)に鳩山内閣の閣僚として経済審議庁長官に就任している。

逸話としては、インドとの合併の話があった時、世界銀行は「以前吉田総理から融資の話があった、しかし政治家は話は上手であるが返済計画がない」との話を高碓翁が鳩山総理に言う。それではと経済企画庁長官をやってもらいたいとの要望があった。

2. 政治家として：昭和30年(1955年)の国政選挙に、岸幹事長から「大臣が議席を持たないのでは党内が収まらん、ぜひ選挙にでてくれ」と言われ大阪3区から立候補を決意した。そのとき70歳であった。

選挙には茨木中学の久敬会という同窓会が参加した。三島郡の中学校では、茨木の卒業生が一番多く、市長の磯村さんも高碓を応援した。また、養精中学時代代用教員をしていた教え子たちも協力してくれたので最高点で当選した。鳩山内閣では経済審議庁長官を勤め、経済白書を初めて出して、「もはや戦後ではない」との言葉を使った

3. バンドン会議：昭和30年(1955年)バンドン会議が開催された。日本としてはソ連に近い中国を警戒したが、周恩来は日本と近づきたかった。バンドンでは秘密会議が何度か開催された。周は日本との国交回復に漢字の共通性を話題にしたが、すでに日本では教育改革が進んでいた。日本としては中国に賠償の責任があったのでその交渉の窓口役を買って出ていると思われる。

高碓氏はインドのネールには親近感をもてなかった。戦後の製鉄工場建設の件をドイツと駆け引きしていたからである。代わりにエジプトのナセルには好意を持ち、のちに日本に招待し経済の復興を見せつけている。

バンドン会議後の外交は、昭和31年フィリピン戦後賠償、33年エジプトのアスワンハイダム建設、34年マコーミックに缶詰の関税交渉、35年フルシチョフと漁業交渉、を行うがいずれもトップと会うのが、高碓氏的外交姿勢で、また政府がやりにくい国とも交渉する全方位外交を展開した。

4. LT貿易：バンドン会議で通訳をした廖承志と会談するようになった。国交回復の日本側の壁は台湾を中国が承認しないとアメリカが承知しないというものであった。アメリカの手前、経済を重視した個人間廖承志とで経済を優先した民間の貿易協定を結んだ。それが国交回復に大きく貢献し、10年後の日中国交正常化につながっていることは、現在の国民の半分は知らないと思われる。



第5回講演ダイジェスト <https://realtimes.real.com/s/g47NnY>

【高碓達之助第6回講演】の概要(9/28の講演から)

1. 中曽根康弘：昭和35年ケネディ大統領の就任式にマコーミック下院議長から招待を受ける。若手有望な中曽根康弘同行させた。磯村初代市長の偲ぶ会の折に、高碓氏談として『これからアメリカに行くが、我々は東洋道徳で一貫しよう』、さらに『よく日本人は、北京に行くとアメリカの悪口を言い、ワシントンに行くと北京の悪口を言うが、俺はそういうことはやらんぞ!』と披露された。ワシントンのホテルから周恩来宛にリンカーの写真入りの絵葉書を出すあたり、高碓氏の間人像がうかがえる。

2. 納沙布岬：講和条約の中で漏れた北方4島、特に納沙布岬と貝殻島の国境線は昆布漁民を苦しめた。零細漁民は高碓氏に訴えた。ソ連ではスターリンからフルシチョフに権力者が交代しており、高碓氏はトップ会談を申し込む。たとえ話を交えながら最終的に国交回復はできないが、互いの立場を認め合い、ソ連の漁業組合と日本の水産会が協定書結び、通行料を支払って昆布と帆立貝の漁業権を獲得した。今も納沙布岬に『高碓達之助顕彰碑』がある。



3. 高槻との関係

① 地元秘書鈴木定次郎氏5代高槻市長を介して事業に関わっていると思われる。鈴木市長は初代磯村市長の『田園都市』構想よりも、都心=衛星都市を目指す。越境して亀岡の一部樫田村併合し、飛行場計画を考えるあたりは、高碓氏の発想だと思われる。6代市長吉田得三氏も高碓氏の金庫番であった。

② 高槻には東西の国道はあったが、府庁につながる道がなかった。そこで、高槻市役所から府庁に繋がる道が必要であり、高碓街道を開発した。安満の公園墓地や、道路で掘った土の採石場に障害者施設を建設したのも地元還元の想いの一幕ではないだろうか。直接的な貢献はされてないが、間接的に貢献が散見される。

『じゃこまめ』=大豆と淀川のもろこをたいたものが高碓氏の大好きな郷土料理である。

第6回講演ダイジェスト <https://realtimes.real.com/s/iFgQGY>

*全会の講演を通してあまりにも歴史を知らないと感じ、未来を志向するにはまずは足元を見つめ偉人の功績を学ぶことを改めて思い知らされた次第であります。

最後までご拝読いただきまことにありがとうございました。